

あおい通信 第127号

日本の世界遺産めぐり その十九 明治の産革遺産 (文化遺産)

日本の近代化の礎となつた遺産が世界の宝に今年五月に九州・山口の関連地域(福岡県など八県)をイコモスが世界遺産への登録勧告をした。そして、七月にはユネスコが、世界遺産一覧表に記載され決定した。

本遺産群は、八エリア、十一サイト、二十三構成資産からなります。
日本式技術革新を評価

西洋以外で最も早く産業化を達成した明治日本。今回の勧告は、国家主導で連携しながら発展した造船、製鉄・製鋼、石炭の三産業をまとめて一つの産業遺産とした日本式

世評・時評

年賀状の意義
 あツと言う間
 の一年、もう師
 走、そんな時節
 を迎えた。
 今年も3・1

1 東日本大震災以来の大災害、ゲリラ豪雨による鬼怒川の氾濫被害が甚大であった。自分の回りに被害者が出ていなくとも、「おめでと〜」と書く気持ちには躊躇せざるをえない人も多かろう。無事に迎えられる年越しに感謝する札状であることには違いないが、
 なんとなく気ぜわしい師走・正月は来る。毎年の事ながら、一年の反省に思いを巡らす。懸命に

産業革命の概念を、イコモスが評価した結果といえる。世界遺産は教会や城など欧州の遺産に偏っており、その是正のために推奨された一つが産業遺産だ。だが、これまでの産業遺産は基本的に一産業に基づくもの。専門家は「欧州では資本家が利益追求の中で生まれたものが技術革新となつたため」と説明する。

日本の場合、技術革新を切望した原点到幕末の国防意識がある。軍艦を造るには良質な鉄が、蒸気機関車には石炭が必要となり、以降の半世紀に、三つの重工業が九州を中

生きて来ていると思うが、満足できる成果をもたらしてきたか、何か忘れていたような不満を抱きつつ次年をむかえる。年賀状の言葉選びに今年も神経を使う。無い知恵を絞らだし、時間を費やす。年賀状を手書きしていた頃の記憶がない。
 そんな中、ある1節を読んだ。「新年は、死んだ人を偲ぶためにある。心の優しい者が先に死ぬのはなぜか/己だけが生き残っているのはなぜかと問うためだ。」新しい年を生きて行くために、今、生きている己にも肝に据えて置きたい。
 ヨツチャン

心に急成長した。この日本特有の発展の軌跡が、世界遺産に値すると認められた。ただ今回、ユネスコが求める保護のための法的規制については、政府は稼働中の施設には、規制の厳しい文化保護を適用しなかった。所有する民間企業の理解を得ながら、将来に向けた保全について改めて考える必要があるとのコメントを付記した。

萩反射炉



①萩反射炉
 山口県萩市椿東(ちんと)に現存している反射炉の遺跡。日本に現存する近世の反射炉は、この萩反射炉と葦山反射炉(静岡県伊豆の国市)のみであるため貴重な貴重な遺産とされる。一九二四年(大正十三年)に国の史跡に指定された。そして今年「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として世界遺産(文化遺産)に登録された。

長州藩(萩藩)はアヘン戦争や黒船来航によって海防強化の必要性を感じて西洋式の鉄製大砲を製造するために金溶金属浴解炉として反

射炉の導入を計画した。一八五六年(安政三年)には鉄製大砲の製造に取り組み始めており、反射炉の雛形(Ⅱ試炉)が操業されていた記録がある。現存している遺構は反射炉の煙突部で、高さは10.5m。上部の一部が煉瓦積み、その下が安山岩と赤土で造られており、往時は石積みは漆喰で塗られていたとされる。上部の約5mほどが二股に分かれているが、実際はそれぞれ独立した二本の煙突となつている。炉床と思われる遺構も煙突に対応して二つ発掘されており、その内の西側の炉床が主に使用されたと考えられる。

【前述の通り、関連構成エリアが広範囲(①山口県②鹿児島県③静岡県④岩手県⑤佐賀県⑥長崎県⑦福岡県⑧北九州市八幡)と資産量も多く、それぞれに興味深い価値を含む資産であります。ユネスコに日本の世界

雑記帳 無題

戦後8年目、1953年に大相撲のテレビ中継が始まった。土曜、日曜が必ず「満員御礼」になったのを、昭和の名横綱、初代若乃花の花田勝治さんが述懐している。それ以前は「よく入ったときで半分そこそこ」だったという。(『昭和史が面白い』半藤一利編著、文

芸春秋)戦前のラジオ放送開始のときも観客が急増したと、こちらは往年の名解説者、関脇出羽錦の奈良崎忠雄さんが同じ本で語っていた。観戦の疑似体験が実体験への渴望を呼び覚ましたのだらう。◆書物や映画で触れた風物を求めて旅に出る人もいる。かと思えばパソコンやスマホを眺めるばかりの若者もいる。昔ながらの主体に比べ、媒

体に誘う動きがインターネットは強いかもしれない。作家の椎名誠が、ネットやテレビでは判らない物があふれていると話していた。「それは匂いなんですよ」と◆少し外へ出るとわかる。キンモクセイが香る。ギンナンが匂う。現実の世界でしか味わえない短い秋が四季の中で大好きな時季だ。
 K・ドラゴン

遺産が本年、新規登録されて一九番目となります。各地の施設をシリーズ化して紹介してみたいと思います。 編集長)

葵友の会 広報コーナー

11月度行事の結果
 麻雀大会
 18日(水)ベイブにて。福山淳一さんの二回目の優勝です。来年の二月は、三十回の記念大会となります。奮ってご参加ください。



カラオケ会
 20日(金)バンバンにて。8名の参加。
 12月度行事の予定
 22日、石神井交流センターにて「大忘年会」を行います。

11月度行事の予定
 20日、川崎大師の初詣と横浜グラウンドインターコンチネンタルホテル31階での中華ランチのバス旅行。
 22日(金)バンバンにてカラオケ。(事務局長)

◆編集委員会より
 「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島まで

**利用者さんの
綴りコーナー**

君波 惣八郎(月)
釣りが大好きでした。でも、刺身はダメなんです。宮津の出身です。松茸、栗、タケノコ、ぜんまいなど美味しいものがいっぱいあります。



宮本 元路(土)
趣味は読書、絵画鑑賞、スポーツ観戦(テレビで)パズルなど。この前、卓球教室に通い楽しかったです。葵でパソコンを始めました。



古澤 広子(月)
葵にきて人と係わるのが楽しくなりました。BSでミステリーの海外ドラマを見ます。映画で好きなのは『羊たちの沈黙』です。



**県外出
たのしみ**
他
縣 百舌子

たかがカレーされどカレー。私の子供の頃、祖母、父母、十人の兄弟、と我が家は、大家族でした。母が作る煮物、天ぷら、おしるこ、カレーライス。はみんなの大好物でした。ある日、そのカレーの日がきて、夕食に食べて、まだ、明日の分が残っていると安心していただけ、夜中にゴソゴソと台所で物音がする。電気も点いていて兄たちの姿がみえる。残りのカレーを食べていた。私と弟がのぞくと兄たちが「こ

不思議な夢
額田美保

最近寝る前に私はふと思うのです。毎日のように起こる犯罪、そして思いもよらぬ災害が、今夜にも起こるかも知れない。そんな事もし急に起こったらどうしたら良いだろう、そう思うと安心して寝られない気がして来るのです。そんな事を考え乍ら眠ったせい、私は夢を見ました。誰だか解らないのですが、窓の向こうに居る人と、とても親しく会話を楽しんで居たのです。何を話して居るのか解らないのですが、それは美しい窓辺でした、周りには色とりどりの花々が咲き乱れ、と

なんでも落語講座
参
絹田治夫

今回は三道楽の中で最大のタブー【ギャンブル】は落語の少教派の話。古典落語の演目の中には博打、(ばくち)つまりギャンブルを扱ったものがいくつもある。落語を通して江戸時代の事を皆さまに伝えていくのが、当時ギャンブルはどんな存在だったろうか。落語の世界で男の三道楽と言え「飲む、打つ、買う」すなわち酒、博打、女である。ちなみにこの中の「女」というのは、



でも幸せでした。話題は尽きないし、まるで天国に居るようでした。その時です、急に体に小刻みの揺れを感じたと思っただけ、それは突然大きな揺れに変わりました。大変です、地震です、どうしたら良いのでしょうか。私は恐ろしくて大声で叫びました「助けて下さい」そして、窓の外へ手を伸ばして窓の向こう側の人の手に縋ろうとしたのです。処がその人の手はほとんど遠くへ行行って仕舞うでも助けて貰えませんでした。私が手を伸ばせば相手の手は離れて行くのです。重なり合うこととは有りません、助けて貰えないのです。

病棟のドラマ
山村 匡子

私は思いました、そう、夢の中の人は現実の人では無いのだから、手は無いです、其処で目が覚めたのです。十一月一日朝の夢でした。現実に戻って思いました。もし戻したら私を誰かが迎えて来たのかも知れないが、でもまだもう少し命を呉れたのではないかしら、それで手を取って連れて行かなかったのではないかと考えると、何だか不思議な夢でした。さあ、元気をだして、また明るく日々を大切に頑張ります。(終わり)



女性との恋愛を指すのではなく、「女郎買い」のこと。江戸時代は吉原など限定された場所での売春は公認されていたので、女郎買いは道楽ではあっても犯罪ではなかったのである。だが、博打の方は現在と同じように江戸時代でも御禁制、すなわち法律違反となつた。斬が少ないのは、その後ろめたさのせいかもしれない。歴代の斬家の中で、とりわけ博打うちとして名を馳せたことがあるのは三代目桂三木助である。本物の賭場に通つていただけあって、『へっつい幽霊』や『看板のピン』などでのサイコロを振る仕

あおい俳壇・致壇

論す 学生孫と 初めてに
政治のはなし さわか後味
津軽弁 食いへ美味(うめ) よと 電話は
滋味あふれ出る 八十路の婦こ
九月作・題詠「一口」
天命か 働き働き 半世紀
病に倒れ 新たな人生
連れ合いの 急の病に わが身には
どこに在にやら 天手古まいよ
十月作・題詠「二天」
鈴樹清明

病棟のドラマ
山村 匡子

今年八月中旬、右膝の人工関節置換手術を受けるため、過去四年間に五度目の入院をしました。荻窪病院は、四年前に大腿骨々頭の骨折で緊急入院して以来、三度目の入院で勝手知ったる何とやら、顔見知りの看護師さんともいらして、息子たちの配慮で入った個室で寛いでいました。手術も無事終了、ひたすら患部を冷やすだけの時間を送っていた三日目の早朝、看護師さんの叫び声で、目が覚めました。未だ夜勤体制の時間で看護師さんは四名。「5F、

草はさすがに堂に入ったもの

草はさすがに堂に入ったものだったらしく、この三木助と義兄弟の契りを結んだ五代目柳家小三郎は、三木助からその仕草を教わっている。しかし、五代目の師匠である四代目柳家小三郎は、三木助ゆずりのその

病棟のドラマ
山村 匡子

Eコールです」の緊急呼出が院内に響き、当直の医師や大勢の人が駆けつけてきたようでした。「エレベーター一基、扉を開けて待機中」とか、「ICU、集中治療室準備完了」とか、テレビドラマの様な言葉が飛び交い、もの数分でエレベーターの扉が閉まり、静かになりました。勿論その患者さんが、その後どうなったか、個人情報も洩らされる筈はありますが、雰囲気から、素早い処置でことなきを得た様子がわかりました。安静状態の私は身動きもならず、隣室の緊迫した空気をただ唯、病院スタッフの献身的で素

